

令和六年五月一日 光栄祭

神 示

世界は 「真理」 を欠いて 知識と情報を絶大と頼って動いている
「真理」 なき知識を絶対と思い込み 人々の心は閉ざされてゆく
調和が図られずに ますます対立して行く因が ここにある
信者に申す

なぜ 神は 「真理」 を社会に示すのか
社会の現実すがたにのまれて迷う人々

「教え」 で社会を見詰めることで

今日いま 自ら取るべき行動が分かる

社会の常識 知識を 「真理」 でつかみ直せば

心に迷いは起きない

人間は 神の手の中

自然の流れの中で生きている 小さな存在に過ぎない

この認識を欠くために

時代の運命ちからを受け入れて 「生きる」 ことができないでいる

万物全てが 互いの運命を重ね 支え合うことで

この社会は巡っている

社会の真実に 今日いまこそ気付いて 奉仕の心で 日々生活にちにちすること

自然と 生きる環境が安定し 「生きる」 力が湧き起こる

社会ながれの変化も ゆったりと心に映る

よって 心は安泰 焦る心も消えて行く

「神魂の時代」 を迎えた今日いまこそかなう 人生の姿と悟るべし